

ミニデイ【おとこの台所 桜新町だより】

発行責任者 桜新町広報：柏木君夫、岡元正史

● 2000年、九州・沖縄サミット。

蔵相会議の会場は、福岡。

サミット首脳会議は、沖縄。日程は、7月21日から23日。ホストは、森喜朗首相。ぞくぞくと首脳たちが那覇空港へ到着。圧巻は、アメリカ・クリントン大統領でした。アメリカ空軍の AIR FORCE 1 & 2 の2機のジャンボ機が、相次いで着陸。

隣りに待機していた海兵隊の大型ヘリコプター MARINE 1 & 2 に、クリントン大統領が乗り移ると、すぐに飛び立って、中部・本部半島のリゾートホテルへ。

そのホテルは、前々からヘリポートの設置を沖縄県に繰り返し申請していたのですが、そのたびに却下されていました。アメリカ大統領の宿泊が決まった途端に、県の側から、せっつくように「早々に、ヘリポートを作って欲しい」と、逆に懇願されたとか。

沖縄首脳サミットの晩餐会は、那覇市街を見下ろす、去年の火災で消失してしまった、国宝・首里城の南殿で行われました。

● 覚えていますか。2,000円紙幣。

2,000円紙幣を、沖縄サミットの記念紙幣と思っている人も多いと思いますが、れっきとした通常の紙幣で、今も市中で。普通に使えます。

2,000円紙幣は、20ユーロ紙幣、20ドル紙幣の使い勝手の良さに習って、発行されました。

表面に描かれているのは、首里城の「守禮門」。

中国から冊封使が来ている間は「守禮之邦」の扁額を掲げて、それ以外のときは「首里」の扁額を、琉球の誇りを持って掲げていたといいます。

紙幣の裏の図柄は、源氏物語「鈴虫」の帖。

当時、2,000円紙幣の表面の図柄が「守禮門」に決まって、沖縄中が沸きました。

ところが、紙幣に描かれた「守禮門」が問題でした。

紙幣が発行されたあとに、琉球新報（地元紙）の最終頁の文化面（日本経済新聞でいえば、左上に「私の履歴書」が載る文化面）に、琉球大学の教授の投稿が載りました。

「琉球王国は、中国と薩摩藩（徳川政権下の）に挟まれて、巧みに、外交と貿易で立国してきた独立国であった。

「守禮門」は、独立国の琉球王自らが、中国の冊封使を、王琉球石灰岩の石畳に、額を打ちつけて迎えるために作られた建物で、琉球にとって屈辱的な門だ。

一方の薩摩藩の使節を迎えた門は、別にあったが、今は消失して、現存していない」

これ以降、2,000円紙幣への熱は冷めて、沖縄でも、ほとんど見なくなりました。

日本銀行の拙速で生まれた2,000円紙幣。市中に流通していない不幸な紙幣です。



これからの予定 7月1日（木）、9日（金）の定例会は、中止です。